

科目名	社会的養護Ⅱ				担当	福原 隆和		
形態	演習	単位数	1	開講時期	2年前期	実務経験	児童養護施設・児童家庭支援センターで勤務	
必修	保育士：必修				ナパリング	Y3306	DPとの関連	3
授業概要	社会的養護にかかる大きな枠組みを理解しつつ、社会的養護の対象となっている子どもの自立支援過程における様々な次元(アドミッションケア、インケア、リービングケア、アフターケア)のなかで、子ども支援を学ぶ。また、子どもを地域の中で育てることの意義も併せて学ぶ。さらに子ども支援の重要な担い手である保育士の専門性について、事例や映像等を通じて学びつつ、グループワークで仲間と知識を共有する。授業内容に応じて、現場で働く方の話を伺う機会を設け、社会的養護の実際についての理解を深める							
到達目標 学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会的養護にかかる基本的な考え方を修得できる</li> <li>2 社会的養護の実際について事例等を通じて理解できる</li> <li>3 保育士の専門性とソーシャルワークに関わる知識・技術とを関連付けることができる</li> <li>4 地域の関わり等を通じて、社会的養護の現状と課題を理解できる</li> <li>5 子どもの権利擁護にかかる現状と課題を言語化することができる</li> </ol>							
授業計画	回	内容						
	1	講義	オリエンテーション、①子どもの理解をふまえた社会的養護					
	2	講義・グループワーク	②社会的養護における保育士等の倫理					
	3	〃	③施設養護（乳児院・児童養護施設）の実施体系と実際					
	4	〃	④医療型障害児入所施設・医療型児童発達支援センターにおける施設養護の内容					
	5	〃	⑤福祉型障害児入所施設・福祉型児童発達支援センターにおける施設養護の内容					
	6	〃	⑥施設養護（母子生活支援施設 等）の実施体系と実際					
	7	〃	⑦家庭養護の実施体系と実際					
	8	〃	⑧個別支援計画の作成と活用事例					
	9	〃	⑨日常生活支援に関する実践事例					
	10	〃	⑩治療的支援と療育的支援に関する実践事例					
	11	〃	⑪自立支援に関する実践例					
	12	〃	⑫記録の意義と実践					
	13	〃	⑬保育士の専門性に関わる知識・技術とその応用					
	14	〃	⑭ソーシャルワークに関わる知識・技術とその応用					
15	〃	⑮社会的養護の課題と展望						
評価基準	授業態度（積極的な参加と発言等）と毎回授業後半に実施する小レポートおよび学期末レポートを通して確認する到達目標の達成状況等を総合して評価する。							
評価方法	授業態度 40% レポート 40% その他 20%（総合評価であることに留意すること）							
フィードバック 方法	レポートについては、授業内容に反映させる形で講評							
アクティブ ラーニング	授業中にグループワークを実施							
教科書	『実践研究や事例から学ぶ社会的養護Ⅱ』（大学図書出版）							
参考書	参考資料は授業時に配布							
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会的養護Ⅰ」を履修していること。</li> <li>・講義においては、学生に意見を求める。講義に積極的に参加をして学びを深めること。テキストに書いてあることを前提にして、講義ではできるかぎり現状や現場の情報も伝えつつ、グループワークを通じて学びを深める。しっかり、予習をして講義に臨むこと。</li> </ul>							
授業外学習	講義の内容は教科書に書かれていない内容が中心となる。そのため、事前学習として教科書内容を把握しておくこと。							
オフィスアワー	授業終了後							